和歌山大学
クリエ映像制作プロジェクト　2013 年度
作成者･代表 渡邉小百合

1. 目標

- スタッフ全員が一通りの番組の作り方を学ぶ
- 積極的な情報発信スポットとして責任を持ち、制作活動を行う
- 番組制作を通してプロジェクト内外とのコミュニケーションを学ぶ

2. 目的

映像を利用して大学や地元の情報を広く発信することを目的にしている。テレビ、ラジオ、及びインターネットといった様々な情報伝達ツールがある中で、テレビを代表とする映像を利用した情報伝達には視覚情報と聴覚情報の２つがあり、受信者側が受け取る情報が多い。これは一度に多くの情報を提供出来るというメリットではあるが、逆に情報量が多すぎて何が一番伝えたいことなのかわからなくなるというデメリットにもなる。当プロジェクトは受信者側に伝えたいことが明確にわかるような映像制作を目指す。また、映像番組の制作における企画立案からアポイントメント、撮影、編集など様々な作業を全員が経験することで、全ての作業を１人でこなせる人材となる。

3. 主な活動内容

企画立案から番組完成までの一連の工程を全て行う。番組制作会社では分業体制で制作されているが、先ほども挙げたように我々は１人で全ての作業をこなせる人材になることを目指している。撮影、編集の技術面だけではなく、企画立案における柔軟な発想力や取材におけるオフィシャルなコミュニケーション力といった今後社会に出てからも必要となる能力を身につけ、視野を広げる為である。また、プロジェクト内からの企画だけではなくプロジェクト外から持ち込まれることもある。活動の広報やイベントの記録 DVD 作成といった依頼も、プロジェクトの目的から逸れない範囲内で対応している。

4. 具体的な活動内容

NHK 杯全国大学放送コンテストへの参加

5 年目の参加となるが今年度は映像 CM 部門 2 作品のみの出品となった。映像 CM 部門は毎年 1 年生が 2～3 人 1 チームとなり制作する。1 団体につき 2 作品までの提出となっているが今年はチームが 3 つになったので、完成した作品の試写会を開いた後、どの作品を提出するかという選考会を行った。1 年生が映像制作の基礎を学ぶ機会とすると同時に、初めての映像制作の中で 1 年生同士が協力し合い、これから共に活動する仲間としてチームワークの向上を図った。各チーム協力して CM 作品を完成させることが出来たが、惜しくも予選を通過することは出来なかった。過去の好成績とは裏腹に、近年は予選通過をも果たせなくなってきている。この現状を真摯に受け止め、敗因や改善点の発見に力を入れるだけではなく、好成績を残した作品の共通点等も研究し、次回の賞獲得を目指す。

クリエ紹介プロモーションビデオ制作

センター長からの依頼を受け、クリエの活動を大学内外の人にさらに知ってもらう為に、ネット上や学内で流すクリエの各プロジェクトの紹介プロモーションビデオを制作した。プロモーションビデオはプロジェクト 1 つあたり約 1 分程度のもので、プロジェクトの目的、概要、成果及び目標の説明、活動風景といった、プロジェクトの活動内容がわかりやすい構成を考えた。各プロジェクトの代表に連絡をとり、撮影内容や撮影日等のミーティング、撮影、編集までを全て自分達で行った。完成したプロモーションビデオは下記のアドレスから視聴出来る。

クリエ PV 公開ページ：http://www.crea.wakayama-u.ac.jp/project/2013/pv/index.html

WUF 放送局

和歌山大学祭の情報番組『WUF 放送局』を Ustream で生放送、配信した。『WUF 放送局』 は大学祭の情報を大学内外の人に知ってもらう為の当プロジェクト独自の番組で、過去 2 回行われている。今年度は大学内ほぼ全てのクラブ･サークルに出演交渉をし、19 団体が CM、ゲスト出演した。主に 1 年生が中心となって活動したが、大学祭実行委員会との連携ミス、機材に関する知識不足、大幅なスケジュール変更による当日ギリギリまでの編集作業といった準備時点で数々の問題が発生した。本番においても機材トラブルや Skype での模擬店中継の映像の乱れといった問題が起きたが、プロジェクトメンバー全員で協力し、予定していた全ての企画を無事行う事が出来た。番組構成による企画力や外部の方との連絡、インタビューにおけるコミュニケーション能力の向上等に繋がったと同時に、自分達に不足しているものを改めて自覚することも出来た。今回の経験と反省を生かし、来

年度の円滑な準備、余裕を持った計画立案を目指す。

（左：機材確認と配置決め）（右：当日の最終リハーサル）

my Japan Award

このコンテストは若い外国人を日本に呼ぶ為の CM コンペである。「まだ知られていない地域の PR」という事が条件にあった為、和歌山県海南市黒江での撮影を敢行した。CM 内容は「黒江」という地名から、″黒江に存在する様々な黒″をフィーチャーした CM 作品を制作した。撮影・編集は主に 3 年生が行ったが、サポート役として撮影時に 1 年生のメンバーも同行した。また、撮影に関しては様々な黒江の商店の方にお世話になった。完成した作品は、最終審査まで残ったが、賞を獲得する事は出来なかった。今後は、その反省として、コンテストの課題を熟考して CM 案を作る事や、撮影のスキルを上げる事を今後の課題とする。

映画制作

2015 年に開催される第 9 回 TOHO 学生映画祭に映画を制作して出品することになったが、ほぼ全員が今までに映画制作の経験がない。そのため映画祭と同じ規定の作品を練習用として制作したいが、映画製作の経験が全くないままでは練習作品ですらまともに作れない可能性がある。そこで練習の練習として古沢良太さん作の「キサラギ」という脚本の 2 シーンを撮影した。2 チームに分かれて同じ 2 シーンをそれぞれがカット割りや演出を考えて撮影し、完成品を鑑賞し合ってお互いの反省点や改善点を話し合った。映画制作には撮影技術、演出はもちろん大切だが、役者との意思疎通や親睦度、撮影現場の雰囲気が役者の演技に影響するので、技術とセンスだけではなくコミュニケーション能力も映画製作には必要だと感じた。現在練習の練習段階を終え、映画祭出品作品と同じ規定の練習作品の制作に入っている。2014 年 7 月中旬に練習作品完成、2014 年 8 月から映画祭出品作品の制作を始め 2014 年 12 月に完成予定である。

「キサラギ」撮影風景

定期演奏会撮影

吹奏楽団と混声合唱団から依頼を受け、12 月 14 日と 12 月 22 日にそれぞれ定期演奏会の撮影を行った。事前の打ち合わせやリハーサルを入念に行ったが、1 回きりの本番で指定された画を撮らなければいけない為、緊張感のある撮影となった。また、どちらの演奏会にも劇があり、動きをリハーサルでしか確認することが出来なかった為、3 台のカメラで誰をどう写せば編集時にわかりやすいものになるのかということを話し合える時間が短く難しかった。撮影、編集、DVD 制作までを行い、混声合唱団へは納入済み、吹奏楽団は現在編集作業中である(2014 年 2 月末時点)。

会場での撮影録音風景

クリエ映像制作プロジェクト紹介 CM コンテスト

プロジェクト内で自主企画として行ったコンテストである。1 人 1 作品制作し、プロが番組内でよく使用している技術を作品に取り入れることを必須とした。撮影・編集の基礎スキル向上を図ると共に、我々の目指す「企画から完成までを 1 人でこなせる人材」に現時点でどこまで達しているか、足りないものは何かという自覚を促した。

5. 結果･成果

今年度は映画製作や初参加となる my Japan Award といった新たな取り組みに挑戦した1年となった。Ustream を使用した大学祭情報番組の配信、クリエ紹介プロモーションビデオ制作等の番組制作も活発に行い、プロジェクト外の方とやり取りをする機会が増えた為、技術力やコミュニケーション能力の向上を図れたのではないかと思う。しかし、従来から参加し続けている NHK コンテストは予選落ち､my Japan Award は一次審査を通過したものの賞を獲得するまでには至らなかったという厳しい結果に終わっている。プロジェクト全体のスキル不足も理由として挙げられるが、我々がコンテストの受賞作品傾向をよく知らなかったことが大きな原因ではないかと考えられる。コンテストによって好まれる題材、見せ方というのはもちろん違ってくる。それらを分析することも「受信者側の求めているものを提供する」という意味では番組制作において重要なことである。これらの反省点を踏まえ、来年度の制作に生かしていきたい。

6. 今後の課題･展望

今年度で 6 年目を迎えた我々クリエ映像制作プロジェクトは設立当初の理念である『わかやまの情報発信基地』が現在の活動と合致しているのだろうかという疑問に直面している。プロジェクト設立時のメンバーが引退していき、新たなメンバーが加わる中で、プロジェクト全体の方向性も徐々に変化している様に感じる。今年度から取り組み始めた映画製作は、今まで制作してきたドキュメントや CM 作品のように元ある素材から作るのではなく、素材そのものから作っていかなければならない。これは「大学内外の情報を発信する」という目的から逸れているが、現在のプロジェクトメンバーの総意である。よって、改めてプロジェクトの理念や目的をメンバー全員で見つめ直し、来期以降からも精力的に活動出来る体制を整えていく。

7. 感想

私はプロジェクトに参加してまだ 1 年も経っておらず、はじめは映像制作に関して右も左もわからないような状態でしたが、先輩方やプロジェクトメンバーに支えられながら着実に成長することが出来ました。成功と失敗の両方を経験したことで得られたものも多いです。今後はその経験を生かし、プロジェクトと自分自身の更なる能力向上に繋げていきたいと思います。

最後に、学生自主創造科学センター、宇宙教育研究所をはじめとして、当プロジェクトにご支援･ご協力頂きました全ての方々に心より感謝いたします。